

平成 19 年度 特色 GP

地域の教育力を活かす医療者教育

—大学と地域との連携、地域の教育力を大学に、大学の智を地域に—

概要

東京慈恵会医科大学は、医療者教育を大学（教育研究機関）と大学附属病院（特定機能病院）のみで行うことはできないと考える。医療者教育には、学生が多様な患者さんと出会い、患者さんから学ぶ環境を整備する必要がある。本学はそのために、医療者教育に「地域」を活用することを実践してきた（Community-based Medical Education）。本学は、昭和 61 年度にわが国で最初に地域開業医へ学生を派遣する家庭医実習を導入し、その後も地域の教育力を活用する取組を続けている（地域中核病院、訪問看護ステーションなど）。しかし、地域の教育力を活かすにはそれを利用するだけでなく、地域医療者へ大学が教育 FD や生涯学習環境をも提供することも重要であると考え。大学の教育資源を積極的に地域医療者に還元することで地域医療実習での学生教育の質の向上が図られる。本取組は本学の地域・大学連携についての提案である。